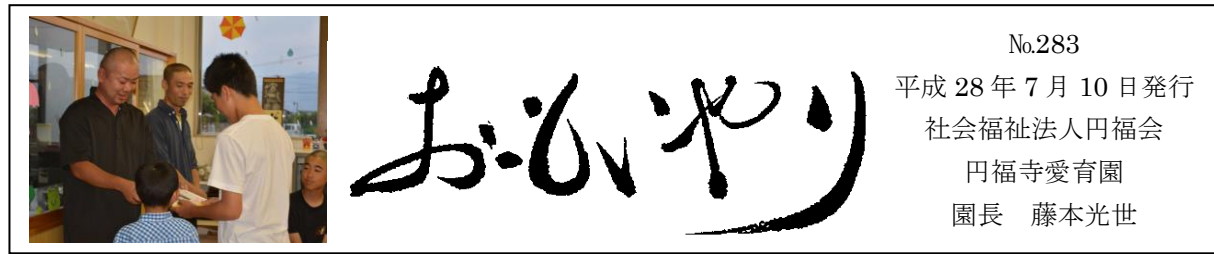


父の日、子どもたちから男性職員にプレゼントがありました。



愛育園職員行動基準

園長 藤本光世

愛育園の職員が自立型人財になり、養育方針に心を揃えて、進んで仕事ができるようにと、今年度は入江感動経営研究所の研修を導入することにしました。

私は、児童養護施設の職員研修はOJT、つまり仕事を通しての研修しかないように思っていました。職員は、愛育園の仕事を通して、あるいは先輩の仕事の後姿を見て力をつける、それしかないと思っていたのです。

私が、施設長研修等で職員の中では最も外に出て研修を受ける機会（OFFJIT）が多いと思います。2年に一度は、東京の灘尾ホールで開催される研修を受けなければなりません。全国施設長会もあります。最初のうちは、何か得ることがあるだろうと一生懸命参加しました。厚労省の説明は国の動きが分かりますから、これは欠かすことが出来ません。しかし残念なことにそれ以外は、あまり得るものはありませんでした。大学の福祉を専門にする講師は、児童養護施設を研究していても、勤務した経験はありません。だから、お話は横を縦にするような机上の論理や、厚労省の方針のさらに上乘せした説明や、主義主張をちりばめた論議や、施設のアンケート調査結果をもとにした説明など、役に立たないことが多いのです。パネルディスカッションなどでの他施設の施設長のお話は当園と養育方針が違いますので、参考になりません。それに、当園のように、全員が朝6時に起床して朝食を食べて、進んで登校し、本気になって生活に取り組んでいるような施設はほとんどありません。だから、そのような養育の実践報告はありません。研修の中に、実践発表があります。ところが発表者は2年目や3年目の施設長が多く、ご苦労して養育を確立された体験を自らの言葉で話され、あるいは児童養護の真実を語られる方はおられないのです。時間をつぶすために、8人程度のグループに分かれて、テーマを決めて討議する機会があります。きっと、施設長同志が交流し、知り合いになり、研修会を離れてもつながりができる様にとの親心なのでしょう。講師はその間、机の間をぐるぐる回っています。これも、当園のような施設は他にありませんから、言いつばなしです。もっとも、このように小グループになるとそれぞれの施設が苦労している様子を具体的に知ることが出来て、その点ではありがたいのですが。テーマに則って話し合ったことを報告してください、と言われると良くしたもので、そんな話し合いをしていなくても、慣れた方が上手に報告してくれます。そんなものでした。

入江感動経営研究所の研修を知ったきっかけは、幼稚園（認定こども園）のキャリアアップ研修でした。幼稚園の副園長が全国認定こども園協会の有力園で研修講師を務めている入江元太氏を円福幼稚園に講師で招聘したのです。この研修を幼稚園職員と一緒に私も受講しました。受講前はこの研修が当園の職員にとって意義あるかどうかは半信半疑でした。でも、研修を受講して次の二点で愛育園に導入しようと決めました。提案書より抜粋します。

1. 心田を耕す

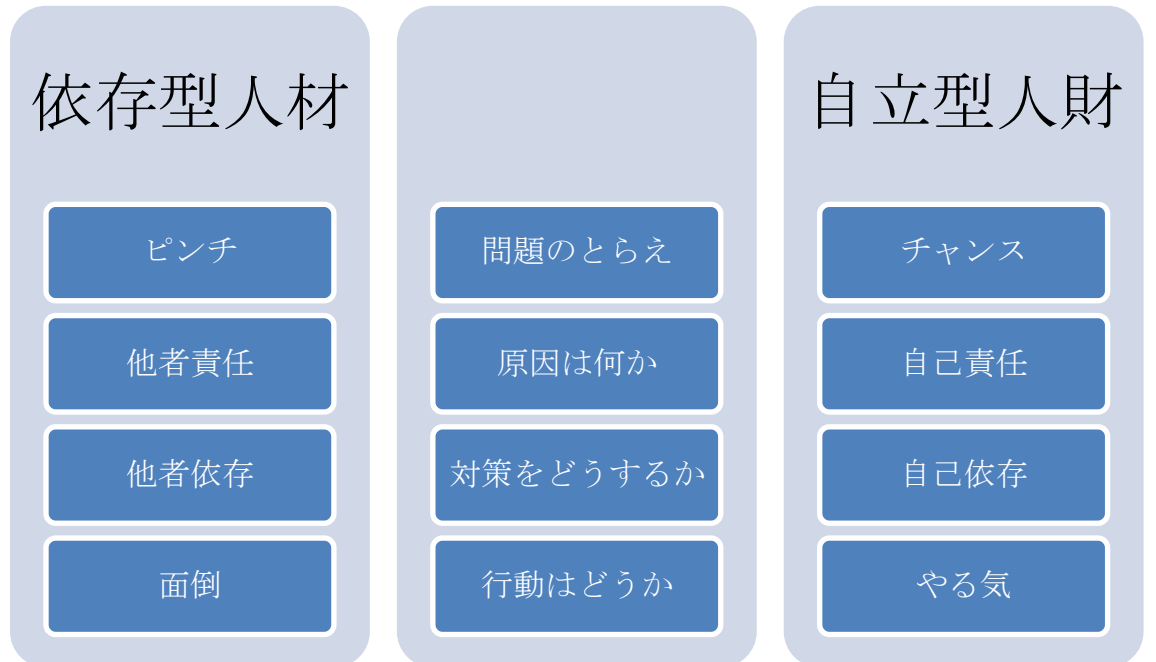
ほとんどの企業、法人、組織は心田開墾を怠ってきました。人財育成＝能力開発と考えてきました。それはなぜでしょうか？

実は、福祉事業所も含め、法人・会社を経営する人たちのほとんどが、心田開墾の重要性を痛感しているのです。もっとも大切だということ、彼ら自身が一番よく知っていたのです。

ではなぜ、これをやってこなかったのでしょうか？答えは簡単です。やり方が分からないからです。どうやって、この最も大切な心田開墾を進めていけばいいのか、有効な手立てが見つからないからです。

ここでは、「これしかない」というべき心田開墾のハウツーを公開していきます。

2. 自立型人財と依存型人材（これは受講時の研修内容でした。）



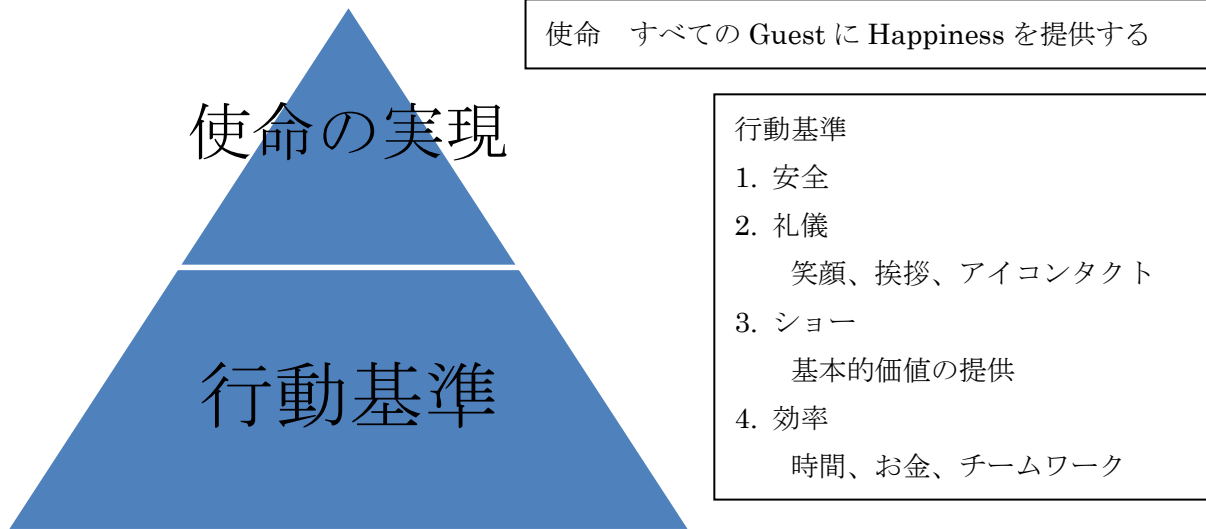
愛育園の仕事は心をもって心を変える仕事です。職員の心が子どもの心と交流して、子どもの心を変える。だから、心田開墾の言葉に魅力を感じました。

そして、職員は自立的人財であってほしい。これは強く願っていることでした。青谷副園長は、子どもが問題を起こすとチャンスだといつも言っていました。子どもの問題をチャンスととらえて、

子どもと向き合い、自己責任で子どもを変えていく。なんと自立的人財ではないでしょうか。他の職員もこうあって欲しいと願っていました。

研修の中で、ディズニーの人財育成について触れられました。9割がバイトでも最高のスタッフに育つ。最高のスタッフとは自立型人財と勝手に判断しました。東日本大震災の時のビデオを見ると、スタッフの判断で頭を守るために売り物の高価なぬいぐるみ等をお客様に渡してしまっていました。このことでディズニーの評判は一層高まったのです。

ディズニーはほとんどがバイトの職員をどのようにして自立型人財に育てるのでしょうか。ディズニーには職員行動基準があることを知りました。



昨年一緒にカンボジアへ行っていただいた入部直之氏はディズニーに30年も勤務されておられました。行動基準について聞くと「SCSE」と教えてくれました。S: Safety C: Courtesy S: Show E: Efficiency このSCSE、をことあるごとに叩き込まれると聞きました。

愛育園にも行動基準を作ろう。その行動基準に則って行動することにより、職員は心を揃えて、自分から進んで動ける人財に育つかも说不定、そう思いました。次回に、愛育園の職員行動基準を紹介しましょう。これを引き継ぎの時に全員で唱和しています。

東京ディズニーリゾート・アンバサダー訪問 副園長 青谷 幸治

6月21日に突然、愛育園の体育館にミッキーマウスとミニーマウスが現れダンスを踊り、子どもたち全員と握手をしたり交流



していただきました。初めてみる子どもたちが多く、目を丸くして何が起こったのかわからず、固まっていました。徐々に状況が理解できたのかりラックスして握手をしたりハグをしたりと写真を撮ってもらいました。数十分間ではありましたが普通の生活を忘れ興奮した時間を過ごしました。

どんな雰囲気になるのかドキドキしましたが、子どもたちは純粋に喜んでくれました。ミッキーには子どもたちの心を掴む魔法があると思いました。改めて夢の世界を実感できました。今日の出来事が、子どもたちの生活のハリになることを期待します。

わいわいカルビ招待 保育士 小林礼

今年もわいわいカルビさんからご招待いただきおいしいお肉をたくさん振る舞って頂きました。お店に向かう車の中からすでに大はしゃぎ！お肉も野菜もたくさん食べたい！とみんな意気込んでおります。感謝の気持ちもしっかりと大きな声で言おうねと言うと「はい！」とても良いお返事です。到着すると小学校高学年の子は自分でお肉を焼いてみたいと苦戦しながらも挑戦してみたりパルセイロの選手の皆さんに「どうしてサッカーを始めたのか」「夢を達成するにはどうしたら良いのか」など大人でも興味深い質問をたくさんしてみたり始終ニコニコ顔でとても充実した様子でした。最後にパルセイロの選手の方々からグッズをいただけるということでジャンケン大会が始まりました。私はこんなに盛り上がり熱の入ったジャンケン大会は



見たことがありません！タオルやポストカード、ユニホームなど色々なグッズをご用意いただきましたが、子供たち自身グッズが欲しい！という気持ちももちろ



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

んですが純粋にジャンケン大会をととても楽しんでおり最終的にもらった子どもそうでなかった子どもとも満足な様子で、こちらもとても心満たされました。楽しい一時を過ごさせていただいたお礼にみんなで書いた色紙と花束、お礼の言葉を贈らせていただき今年のわいわいカルビは幕を閉じました。たくさんの美味しいお肉と楽しく充実した素敵な時間を本当にありがとうございました。

通明小学校との懇談会

保育士 近藤 典雄

6月15日通明小学校と懇談会がありました。今年もたくさんの先生方に来ていただきました。小学生は先生方が来てくれることをとても楽しみにしていました。園内の見学の時、先生の姿が見えると、嬉しそうに挨拶をしたり、終わった宿題を見せていたりしました。

そのあとに学校の先生方と園内の様子や学校内の様子を話し合い、普段聞けないような話を聞くことができました。園内では見せない姿もありとても頑張っていると感心しました。懇談会が終わって先生方にはお参りにも参加していただき。夕食も一緒に食べていただきました。その時も先生の隣でご飯を食べて照れくさそうでも嬉しそうにしていました。見送りもみんな外に出て元気に手を振っていました。

父の日行事 主任保育士 石崎 早織



毎日慌ただしく過ぎていき気が付けば6月に中旬。今年の日は何をプレゼントしようかを、中高生女子を中心に話し合いをしました。それぞれみんなで意



見を出し合い、これを上げたら喜ぶんじゃないか、こんなプレゼントがいいのではないかな、みんな真剣に自分のアイデアを出し合いました。製作も中高生女子が中心と

(平成28年6月10日発行 月刊「円福」480号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

なし、心を込めて一つ一つ丁寧に作りました。毎年父の日行事を中心にやらせていただいています。子ども達を書くメッセージカードを見させてもらおうと、年々心がこもっており、メッセージを見るだけでも、その子の心がわかり、成長を感じます。普段なかなか言えない感謝の気持ちを一生懸命書いていました。プレゼントを受け取った先生方の嬉しそうな表情を見れて、子ども達も嬉しかったようです。

子供坐禅会に参加して

あおぞらホーム 石黒玄章

この度、上田地域の若い和尚さんが主催する坐禅会に、年中さんから小学校6年生の児童総勢16名で参加させて頂きました。



当日、児童達は何処へ行くのか？何をするのか？良く解らないまま会場のお寺に向いました。全体では90名の参加があり、最初は緊張気味の様子だった子ども達も開会式が始まる頃にはお寺の空気にも慣れ、皆でお唱えした般若心経は、毎日の成果が現れ立派にお唱えすることが出来ました。

坐禅が始まると、普段経験した事の無い静寂の中に虫の声や風の音が心地よく、子ども達の毎日の騒がしさが嘘みたいにシッカリと坐禅に取り組んでいました。

食事も規則にのっとり静かに頂くのですが、皆残すことなく美味しく感謝して頂戴しました。和尚さんのお話や紙芝居にもしっかりと耳や目を傾け、自分自身の為になった事と思います。

今回このような行事に参加させて頂き、普段身近にお寺が存在していますが実践となると戸惑う事も多いかと思いましたが、子ども達の姿勢は大変素晴らしく愛育園の児童達が参加してくれて本当に嬉しく良かったと思えました。この様な実践を通して、少しでも仏教が身近になってくれる事を願います。

中体連柔道大会

あおぞら保育士 富澤正樹

今年、中学1年生になったY君は、小学生の時から松代の文武館で柔道を習っています。入学した篠ノ井東中学校には柔道部が無く、とても残念がっていたのですが、柔道を続けたいという気持ちから、中学校に入っても、文武館に通い続けています。

そんなある日、通っている中学校に柔道部がなくとも、中体連の大会に参加できることを園長先生が教えてくださいました。文武館に通い続ける事を決めたY君でしたが、今一つ目標がはっきりしていなかった所に、突然、大会出場の話が来て、Y君は驚いていましたが、大会に出られることをとても喜んでいました。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

週2回の練習では練習量が足りないと、大会に前の土日には、松代中学校の柔道部まで出稽古に行きました。本人は大変さを感じていたようで、時に弱音を吐くこともありましたが、しっかり練習に参加する事が出来ました。正直な所、小学生の時には、「今日は行きたくない」と駄々をこねて、本当に行かない日もあったのですが、そういったところでの成長をととても感じました。



大会は、6月12日の市中大会と19日の北信大会に参加しました。市中大会では、初めての大会に、あからさまに緊張して、つつい虚勢を張ったり、急に無言になったりするY君の姿に良い経験をさせてもらっているなあという事を感じました。試合は、相手の素早い動きについていけずあつという間に技あり2本を取られて負けてしまいました。北信大会でも開始数秒の所で相手にきれいに投げられ一本負けしてしまいました。

それから数日間経過し、変わらず文武館に通っているY君ですが、以前より、技を積極的にかけに行く姿勢が増えたような気がします。試合に負けた時には、悔しい様子は見せずにケロツとしていたY君ですが、実は胸に期するものがあつたのではないかと思います。

私自身も、柔道の大会には初めて引率したのですが、北信大会では、選手の皆さんが、その一瞬に懸けて戦っている表情に鳥肌が立ち、負けて引退となってしまった選手が泣き崩れて起き上がれないでいる光景に胸を打たれました。

Y君も、もっともっと柔道に打ち込んで、のめり込んで、1年後、2年後、人の心を揺さぶるような選手になって欲しいと感じました。

中体連柔道北信大会に参加して

中1 Y. I

6月26日に柔道の北信大会がありました。ぼくは、この大会に向けて、練習してきました。通っている柔道教室ではコーチの龍堀先生に何度も怒られ、時には気持ちが弱くなり、園の先生と夜遅くまで話す事もありました。篠ノ井東中学校には、柔道部が無いので、土日は松代中学校の柔道部の練習に参加させてもらう事もありましたが、とても勉強になりました。

大会本番、とても緊張して、全然落ち着く事ができませんでした。緊張して第一試合に出る事まで忘れてしまいました。

いよいよ、試合開始で「はじめ」と言われると、すぐに「バシッ」という音が体育館にひびきました。あつという間に負けてしまいました。とても悔しかったです。

新人戦までには、今以上に柔道を頑張りたいです。

中体連 北信大会

あおぞらホーム 佐々木 弘観

今年も野球をプレーする子ども達にとって青春の時期がやってきました。野球を頑張る高校生に

(平成28年6月10日発行 月刊「円福」480号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

とって、青春の全てかける夏の甲子園予選が始まる一足先に、中学生たちにとって青春をかける中体連の大会がやってきました。

愛育園にも野球をやっている子が3人。そのうち2人は3年生です。

6月18日に中体連の北信大会が行われました。この日に向けて野球部の子達は毎朝5時半に眠たい目を擦りながら起きて、野球の練習へと向かっていきました。受験生ということもあり、部活で疲れて帰ってきて、夜遅くまで勉強をし、次の日には朝早く起きて練習に行き、という大変辛い生活でありましたが、一度も部活に対して弱音を吐いたところを見た事はありませんでした。

大会当日、試合前の練習が始まると緊張した面持ちで練習に参加する2人の姿がありました。一生懸命に声を出して真剣にボールを追う姿に私自身、何度も心が揺さぶられました。

試合は、1回表にピッチャーの立ち上がりを攻められ2点を先制され、その後はお互い譲らず回が進んでいき結果2-0で負けてしまいました。中学での野球は終わりになりましたが、この試合に向けて日々努力してきた事は将来の野球人生に必ず繋がっていく事だと思います。

今度は受験。志望校を勝ち取れる様に、野球で学んだ事を生かして残りの8ヶ月を全力疾走して行ってほしいと思います。

中体連北信大会

M R

6月18日、中体連の北信野球大会がありました。試合20分前に球場入りしキャッチボールをしました。自分はスタメンではないのに緊張で手が震えて、上手く投げられませんでした。

続いてシートノック、自分はセカンドでノックを受けていました。とてもいいノックだったと自分は思います。

そして11時前プレーボール相手は南部中学校。練習試合ではなかなか勝てなかった、でも今日は勝つかも知れない、いや絶対勝つその思いでベンチから見守っていました。しかし初回から2点を奪われてしまいました。険悪な雰囲気になりつつも3アウトを取りました。

攻撃ではチャンスがつかれず点は取れないでもフィールドにいる仲間に声をかけ続けた。しかし最終回、何とかチャンスをつくりたい。何とか延長まで持ち越したいと思っていたらいつの間にか2アウト。次ぎ取られたら負け、そして引退。自分は絶対そうなりたくなかった。この仲間と松坂先生と一日でも長く野球を続けたい。その一心で、四番のY君に今までに出したことの無い声で彼を励ました。キャッチャーフライ。3アウト絶望的な瞬間だった。ベンチから出ると、他の仲間が声を上げて泣いていた。でも自分は涙が出なかった、負けたということを受け入れなかった。お昼を食べ終わり、松坂先生のお話を聞いて、話を聞いているうちに、涙がボロボロ出た、悔しかった、もっと野球をしたかった。いろんな感情が湧いてきました。しかし負けたことには変わらない、学校に帰ってきて、皆と別れるのがとても辛かった、これで中学野球人生は終わってしまいました。

この悔しさをバネに、高校へ行って野球を続けると固く決心しました。

最後に、今まで部活動をやらせてくれた園長先生、始め青谷先生、園の先生方、指導をしてくだ

さった顧問の先生、共に野球を続けてきた仲間や後輩、保護者の皆さん、影で支えてくれた両親に感謝し、これからも野球を続けていこうと思います。

中体連 野球部 選手感想 「北信大会を終えて」

中3 A.S

6月18日に行われた北信大会では、南宮中と戦いました。今までやってきた成果を全部出す日が来ました。自分は2年生の冬に入部したので、レギュラーになろうと必死にやってきましたが、なれませんでした。だけど、自分の出来る範囲の事、シートノックでの顧問の先生への球出しや声が枯れるまで応援したり、エラーをした仲間を励ましたり、できることを精一杯やりました。

県大会に行きたい。絶対に勝つ。と思っていたけど、負けてしまいました。今まで仲間と一緒にやってきた事を思い出して泣きました。

僕達が負けた分、1・2年生が県大会にいけるように頑張ってもらいたいです。そして、野球が出来たこと、顧問の先生や保護者の方々に感謝しています。

よもぎ団子作り

調理員 宮沢 まき江

5月30日に小学生の男の子、女の子とよもぎ団子作りをしました。2班に分かれ、大きなボウルに粉を入れ耳たぶくらいの硬さになり手につかなくなるまで一人一人順番にこね始めました。最初は手に粉が付くので、とまどっていた子どもだんだん滑らかになってくると「次は俺、次は私」と大騒ぎでした。

こねあがり棒状にしひと口大に切り、それをまた一人一人が手の中で丸く形作りをし、卓上コンロにお湯を沸かした鍋の中で茹で上げ、冷水に取りながら歓声をあげていました。茹であがった団子にはきなこ、あんこが付けられ完成しました。

そして、園全員分の当日のおやつとなりました。子どもたちの大満足な顔に共に楽しいひとときでした。

あおぞらホームだより

保育士 藤本 諒一

夏休みまで残りわずかとなり、ジメジメとした梅雨の時期となりました。先月末から小学校ではプールの授業が始まり、1年生は初めての学校でのプールを楽しんでいます。2年生以上は去年より泳げる距離を長くしたいなど目標を掲げて事故のないように泳いでほしいと思います。中学生は



市中大会がありました。結果は残念なものとなってしまいましたが、一人一人全力で試合に臨めました。中学3年生はこれで本格的に受験生となり、自分の目標としている高校に向けて勉強する日々となります。

1学期も終わりに近づくと中・高生は期末テストの時期となります。テストが返却されて嬉しそうに点数を見せに来る子や悔しそうにしている子もいます。これから、1学期の勉強の復習は夏休みを利用してやりながらいき2学期は自信をもってスタートがきれるように日々の学習の手伝いをしていきたいと思います。

これから様々な行事がありますが、子ども達と協力しながら創りあげ、一生懸命取り組み、去年以上の感動と達成感を皆で分かち合いたいと思います。

まごころホームだより

保育士 竹田 悠希

1学期も残すところわずかになり、じめじめとした梅雨の時期に突入しました。今年から、幼児さんは幼稚園へ通園していますが、初めてのプール活動に楽しく取り組んでいます。また、小学生は先月の27日よりプール開きが始まっています。一人一人が「長い距離を泳げるようになりたい」「クロールができるようになりたい」といったように目標を持って、安全にプール活動を行ってほしいと思います。そのためにも、まずは普段から人の話を素直に聞いたり、落ち着いて生活を送る児童を増やしていきたいです。中高生では、この時期になると、期末テストも終わり、テストの結果を喜んで見せに来る子もいれば、点数が上がらずテ気まずい表情をしながら渡してくる子もいます。期末テストとなれば、中間テストよりも範囲は広いですが、休日を使ってよく復習を行っていき、1学期の学習は1学期のうちにマスターできるように職員も一緒になって、一人一人の学習をみていきたいと思います。

7月の行事は、初めてやるものもあり、たくさん予定を立てているので、職員も子どもと一緒に、一つ一つの行事に力を合わせて、去年よりもまたさらによいものを作っていきたいと思います。

調理室だより

栄養士兼調理員 原 未華

6月4日は、「虫歯予防デー」ということで、この日の夕食のメニューは「麦ごはん、あじのごま焼き、根菜の煮物、ひたし豆」でした。虫歯にならないことはもちろんのことですが、よく噛むことの大切さを子どもたちに感じながら食事を楽しんでもらいたいのが私たち調理の願いの一つです。

自分の歯をいつまでも健康で丈夫に保つためには食生活が重要です。今回の夕食のメニューは噛む回数が多くなるような献立にしましたが、普段の食事でも子どもたち一人一人が意識していけるように食育の面でもサポートしていきたいです。

愛育園の職員になって

まごころホーム 渡邊 梓

早いもので、愛育園に来て3ヶ月が経ちました。ドキドキした担当発表、進学進級に合わせて部屋替え、大掃除をした4月が懐かしく感じます。6時の起床や朝夕のお参りと、子どもたちが当たり前のようになっているこの日課にも慣れるのが大変だったことを覚えています。自分が子どもの時

に6時に起床できていたのだろうか、と考えると、いかに子どもたちが頑張っているか分かります。おはよう、いってきます、ただいまと元気な声が飛び交うこの愛育園を、子どもたちを守っていき



たい、守っていかねなければならないと日々感じます。また、行事では、子どもたちの高校野球の応援で選手と一緒にあって一喜一憂する姿や、15 km、30 kmのウォーキングで最後まであきらめずにみんなで声を掛け合ってゴールを目指す姿を見ることができ、子どもたちのとてもあたたかく、とても清々しい心を感じました。

愛育園の職員になって3ヵ月経ちましたが、最近になってやっと子どもたちそれぞれの性格や好きなこと得意なもの、嫌いなもの苦手なことが少し分かってきました。子どもたち一人ひとりを理解し、全力で遊んだり、怒ったり、悲しんだり、全力でぶつかり合いながら、子どもたちと一緒に問題を解決していけるそんな関係を築いていきたいと思えます。

「愛育園の職員になって」

まごころ 竹内早季

愛育園に来て早くも3か月ほど経ちました。昨年の今頃、愛育園のことをホームページで知り、就職について悩んでいた私にとって「行ってみたい」と思ったのがきっかけでした。元々教員志望で大学に入学し、教育実習で感じた自分のやりたいこととの違いに悩んでいたのですが、愛育園に見学に行ったときに「これだ！」と思いました。子どもたちの生活面をサポートしていくことはもちろん、子どもたちに夢を意識させるという方針にとっても惹かれました。また、運動会や愛育園祭で見た子どもたちの姿はまさに全力で、とても感動したことを覚えています。そして、今、保育士として愛育園で働かせていただいている中で、昨年見た行事の裏には日々の生活が積み重なっていることを実感しています。また、職員と子どもの関わりの重要性も感じています。私の関わりはまだまだ十分とは言えません。日課を意識しすぎるあまり、つい焦って注意ばかりになってしまい、子どもたちと衝突してしまうことが多いです。それでも学校から帰ってきた子どもたちから「今日

こんなことがあったんだよ！」と話してくれたり、学習に一生懸命取り組んでいる姿を見たりすると、子どもたちのためにもっと頑張ろうという気持ちになります。日々勉強だと思い、何事も積極的に取り組んでいきたいです。



- 愛育園職員行動基準(案)
- 一 私たちは、愛育園の使命が子どもを自立させることであることを自覚し、この尊い仕事に、責任感、使命感、情熱をもって尽くします。
 - 一 私たちは、各々の職務が子どもの夢の実現のためにあることを自覚し、課題解決の方法を考え、優先順位を決めて全力であたります。
 - 一 私たちは、子どもの安心安全な生活を壊すものが力のピラミッドと死角であることを自覚し、些細な気配も見逃さずつぶします。
 - 一 私たちは、チームで子どもを育てていることを自覚し、報連相と引継ぎを怠りません。
 - 一 私たちは、困難なことに挑戦してこそ人は成長することを自覚し、子ども達のみならず私達職員も切磋琢磨して成長を競い合います。